

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国公民科・社会科教育研究会

(代表者 大山 敏 会員数 約1,000人)

T E L 03-3958-0121

1 前 文

出題内容は学習指導要領に掲げられた教科・科目のねらいおよび内容に概ね則しており、基礎・基本を重視したものとなっている。平易な問いを中心に高校生が学習した知識や涵養した思考力に基づき、考えて解いていく工夫が施されている標準的な問題である。ここでは後期中等教育を与える現場からの意見と評価を申し述べる。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等

全体をとおして質・量ともに共通テスト初年度以来、同程度を維持している。大問5、解答数30という形式は共通テスト初年度以来継続しており、安定した出題である。学習指導要領に則り、基礎的基本的な知識を確認する問いや、確かな基礎的基本的な知識に基づき資料等を読み込み「現代社会」で学んだ見方考え方を発展させた思考力判断力を駆使して解く問いを中心に構成されている。難問奇問は見られず平易ながら考えて解く工夫がなされている。大問の状況設定に無理があるのは共通テストならではの制約とは理解できるものの、出題される先生方の専門性を活かした学問としての背景のあるリード文を高校生に読ませ、「現代社会」を学習した延長線上に高等教育があることを実感させ、深遠な学問の世界に向かう尊さ、真理の探究者の一員として学問を修めることへの畏敬の念を育てるとともに、学問への真摯な姿勢を涵養する工夫も期待したい。それだけ共通テストがもつ高校生への影響力は大きく、かつ重い。問いの構成も「現代社会」で学ぶ内容をただ寄せ集めたものではなく、解きながら体系立てた学びが深まり、大学での研究につながることを感じさせるものであるべきだろう。

以下、各設問について意見と評価を申し述べる。

第1問 大学の公開講座に参加した二人の高校生の学びというつくりでの国際政治についての問題。後期中等教育における「現代社会」の学習内容を踏まえた知的なリード文を示した上で問いを設定すべきではないか。

問1 9.11を受けてのアフガニスタン戦争と2003年からのイラク戦争についての基礎的基本的な知識を問う。

問2 各国の政治体制についての基礎的基本的な知識を問う。①イギリス議会における下院の優越、②日本の改憲手続き、③アメリカ議会の特徴、④中国における共産党支配、について問う。

問3 軍拡と軍縮をゲーム理論から考察する思考力判断力の問い。ア～ウの説明を丁寧に追えば正解は容易。

問4 ゲーム理論の限界を説明したリード文は評価できる。正答を核兵器禁止条約としたのも近年の動向を踏まえた教育的配慮と評価できる。②非核地帯構想についての理解、③米ソの核軍縮についての知識、④IAEAについての、それぞれ基礎的基本的な知識を確認する。

問5 国際法についての基礎的基本的な知識を問う。イについては、例えばなぜアメリカが国際刑事裁判所に反対しているかを考えれば手掛かりになる。

- 問6 武力紛争予防について思考の過程を整理しながら考えて解く思考力判断力の問い。
- 第2問 経済学部志望の高校生が大学生の姉と買い物に出かける設定で、経済分野を中心に、基礎的基本的な知識から思考力判断力まで幅広く問う。各問いは考えられているだけに全体を俯瞰しまとめるリード文がほしい。
- 問1 機会費用の考え方についての理解を問う。基礎的基本的な問い。
- 問2 情報の非対称性や逆選択についての思考力判断力の問い。良問。
- 問3 経済学と心理学の接点を実験から考える思考力判断力を問う。平易な良問。
- 問4 購買行動から防衛機制や葛藤について基礎的基本的な知識を問う。
- 問5 思想哲学に関する基礎的基本的な知識を問う。
- 第3問 漁師の家に生まれ漁村に住む高校生という設定で三つの場面を設定し、地球環境問題、外部経済、基本的人権、循環型社会、税制、需要供給曲線、行政手続法、環境影響評価などについて基礎的基本的な知識と確かな知識に基づく思考力判断力を問う。各問を包含する大きな括りでのリード文は必要ではないか。
- 問1 公害に関する思考力判断力を問う。ただし、「現代社会」の学力を問うことになるのか疑問ではある。なぜなら、配布資料とメモの読解力が問われているからだ。一般常識があれば正解に至る。
- 問2 外部経済・外部不経済について具体的事例から考える思考力判断力の問い。
- 問3 最高裁判例を通して基本的人権についての基礎的基本的な知識を問う。①国籍法違憲訴訟、②女性の再婚禁止期間違憲訴訟、③夫婦別姓訴訟、④婚外子差別違憲訴訟、いずれも重要な判例。
- 問4 循環型社会形成推進基本法は学習するものの、基本権原則の優先順位まで学習するだろうか。選択肢a～dいずれも重要であり、第1位と第2位を知ることが「現代社会」の学習のねらいとどう関係するのか、疑問である。高校生からすると覚える順番がリデュース、リユース、リサイクルだから、多分その順番だろうということ⑦を選んだのではないか。
- 問5 炭素税かと思いきや税制全般についての基礎的基本的な知識を問う。①補足率、②直接税と間接税の特徴、③ドッジ・ラインとシャープ税制の理解、④水平的公平性と垂直的公平性の理解、いずれも基礎的基本的ながら重要な知識である。
- 問6 解説文の読解と需要供給曲線を示す図の読み取りから需要供給曲線の理解を問う思考力判断力の問い。
- 問7 行政手続法はじめ行政活動を統制する制度について基礎的基本的な知識を問う。①行政手続法、②特別裁判所、③オンブズマン制度、④常設型住民投票条例、いずれも基礎的基本的な知識。④は聞きなれない高校生がいるかもしれないが①が正答であることは明らかなので迷うことはない。
- 問8 環境影響評価について、環境影響評価の定義に基づいて具体例を考える思考力判断力を問う。
- 第4問 授業での発表を控えての生徒と先生の会話文とステークホルダーについての会話文を読み、企業、貸借対照表、株主総会、インセンティブ、消費者問題、労働問題、社会保障、市場原理などについての基礎的基本的な知識と確かな知識に基づく読解力、思考力および判断力を問う。問4事例Iはインセンティブに関する内容である。第2問問2でも同様の視点の出題がある。重複とまではいわないが相互に考える手掛かりとなるものであり、どちらかの問いを別の問いに差し替えておくべきではないか。
- 問1 起業資金の調達の見点からの説明を読み取る力を問う。問われる知識は基礎的基本的な

はあるが、授業での扱いとは視点が異なる工夫がなされている。

問2 ある会社の資金調達状況の説明を読み、貸借対照表のルールを読み、貸借対照表を完成させることを通して、思考力判断力を問う。

問3 株主総会の機能について基礎的基本的な知識を問う。

問4 インセンティブについて、提示された二つの事例を読み、文意から適切な表現を選ぶ読解力に基づく思考力判断力を問う。

問5 消費者問題についての基礎的基本的な知識を問う。消費者基本法、消費者契約法、クーリングオフ、多重債務問題について問われた。

問6 労働問題について基礎的基本的な知識を問う。労働三権、労働三法、障害者雇用、労災保険などの知識が問われた。

問7 社会保障と人権についての判例と社会保障の制度についての基礎的基本的な知識を問う。

問8 市場原理に関する基礎的基本的な知識を問う。ベンチャービジネス、コングロマリット、下請け、経済の二重構造、上場企業、持ち株会社、非価格競争などの基礎的基本的な知識が問われた。

第5問 メディア論の会話文を読み、子どもの貧困を主題にした探究という建付けで広く思考力判断力を問う。

問1 選挙報道から会話文の読解に基づき投票行動や選挙の仕組みについての基礎的基本的な知識を問う。

問2 二つの資料からメディアの利用実態と信頼度について読み取れることを確認する思考力判断力を問う。

問3 報道記事についての会話文の読解を通して、より適切な報道の分析にかなう表現を選ぶ思考力判断力を問う。もっとも、一般常識と国語力で正解に至ることは可能である。